

中学歴史プリント（書き取り）

昭和時代（戦後）

名前

得点

/20

- 問1 農地改革において、政府が強制的に土地を買い上げた対象を何という？
- 問2 戦後、経済の民主化を進めるために行われた、巨大な企業集団を解体する政策を何という？
- 問3 サンフランシスコ平和会議に参加したものの、領土問題などを理由に調印を行わなかった国はどこ？
- 問4 1950年に勃発し、日本に特需景気をもたらした国際的な軍事衝突を何という？
- 問5 1956年に日本と国交を正常化させた相手国はどこ？
- 問6 アメリカを中心とする資本主義陣営と、ソ連を中心とする社会主義陣営が対立した、第二次世界大戦後の国際的な状態を何という？
- 問7 日本が国際連合への加盟を果たした年はいつ？
- 問8 第二次世界大戦後、自由主義や市場経済を掲げ、資本主義陣営の中心となった国を何という？
- 問9 1967年、東南アジア諸国の経済成長と平和を目的として結成された組織を何という？
- 問10 1973年、原油価格の高騰により日本経済に大きな影響を与えた「石油危機」のきっかけとなった戦争は何？
- 問11 ポツダム宣言において、日本に対して要求された、戦争を終わらせるための条件を何という？
- 問12 1960年にアフリカで多数の国が独立を果たし、そのように呼ばれるようになった出来事を何という？
- 問13 1950年代半ばから1970年代初めにかけて続いた、日本の急速な経済成長を何という？
- 問14 第二次世界大戦後、多くの国が独立したことで加盟国が増え、国際社会での影響力を強めた機関は何という？
- 問15 高度経済成長期に、企業の生産活動が原因となって引き起こされた、大気汚染や水質汚濁などの環境破壊を何という？
- 問16 第二次世界大戦後、サンフランシスコ平和条約で日本から切り離され、長らく施政権下に置かれた国はどこ？
- 問17 第二次世界大戦後、植民地支配から独立し、新たに国際社会の一員として歩み出した国々を総称して何という？
- 問18 第二次世界大戦後、長くアメリカの統治下に置かれ、1972年に日本へ返還された都道府県はどこ？
- 問19 1949年に中華人民共和国を建国する際、敗れて台湾へ逃れた国民党の指導者は誰？
- 問20 1950年に朝鮮半島で勃発し、日本に特需をもたらして戦後経済復興のきっかけとなった戦争を何という？

答え合わせ・解説

問1	答え 地主	GHQの指示で行われた農地改革では、政府が地主から農地を強制的に買い上げ、それを実際に耕作していた小作人たちに安価で売り渡しました。これにより、封建的な地主制度が解体されました。
問2	答え 財閥解体	GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の指令により、巨大な財閥企業を解体・分割しました。これにより、企業間の自由な競争を促し、経済の民主化を図ることを目的としました。
問3	答え ソ連	ソ連（現ロシア連邦の前身）は、北方領土の問題や平和条約の内容を巡って日本と対立し、サンフランシスコ平和条約には調印しませんでした。これにより、日本は主権を回復したものの、北方領土問題という長年の外交課題を抱えることとなりました。
問4	答え 朝鮮戦争	日本に駐留していたアメリカ軍が、戦地へ送る軍需物資や修繕の依頼を日本の企業へ大量に出しました。これを「朝鮮特需」と呼び、日本の製造業やサービス業は大きな利益を上げました。
問5	答え ソビエト連邦	鳩山一郎首相がモスクワに赴き、日ソ共同宣言に署名したことで両国の戦争状態は終結しました。これにより、長年の懸案であった外交関係が回復し、両国は平和と善隣友好の関係を築くことを約束しました。
問6	答え 冷戦	核兵器を保有する米ソ両大国が直接戦争をすれば人類の破滅を招くため、直接的な武力衝突は回避されましたが、朝鮮戦争やベトナム戦争などの代理戦争を通じて、世界各地で緊張状態が続きました。キューバ危機は、この対立が最も核戦争に近い緊張状態に達した出来事の一つです。
問7	答え 1956年	1956年、鳩山一郎内閣のもとで「日ソ共同宣言」が調印され、日本とソ連の国交が正常化しました。これを受けて同年、日本は国際連合への加盟が正式に承認されました。
問8	答え アメリカ合衆国	アメリカ合衆国は、自由主義や市場経済を重視する国家群の中心として、西側諸国をリードしました。ソ連を中心とする東側諸国と激しく対立しました。
問9	答え ASEAN	インドネシア、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイの5カ国によって結成されました。当初は反共産主義の色合いもありましたが、次第に経済発展のための協力関係が強まりました。
問10	答え 第四次中東戦争	1973年にイスラエルと周辺のアラブ諸国の間で起こった第四次中東戦争をきっかけに、石油輸出機構（OPEC）が石油を武器として政治的な圧力を行いました。これにより原油価格が大幅に引き上げられ、世界的な「石油危機」が発生しました。日本では灯油やトイレットペーパーの買い占め騒動が起きるなど、国民生活と産業に大きな不安を与えました。
問11	答え 無条件降伏	この宣言の核心は、日本軍が「無条件降伏」することでした。軍隊の武装解除や、民主主義の復活などが条件として盛り込まれていました。日本政府はこの宣言の受諾を遅らせたため、広島と長崎への原爆投下やソ連の参戦を招くことになりました。
問12	答え 17	1960年、アフリカ大陸において一度に17もの国々が独立を達成しました。これによりアフリカの地図は大きく塗り替えられ、国際政治におけるアフリカ諸国の存在感が飛躍的に高まりました。
問13	答え 高度経済成長	1955年頃から1973年のオイルショックまでの約20年間、日本は世界的に見ても驚異的なペースで経済発展を遂げました。これを「高度経済成長」といいます。重化学工業が中心となり、テレビ・洗濯機・冷蔵庫などの「三種の神器」が普及し、人々の生活水準も劇的に向上しました。
問14	答え 国際連合	当初は欧米中心の組織でしたが、1960年代以降、アジアやアフリカの独立国が次々と加盟したことで、より多様な意見を持つ国際的な場へと変貌しました。
問15	答え 公害問題	水俣病や四日市ぜんそくなど、地域住民の健康に多大な被害を与えました。人々は企業の責任を追及する運動を起こし、行政や司法も動きました。
問16	答え アメリカ	沖縄はアメリカの施政権下で、戦略的拠点として大規模な軍事基地が建設されました。住民の意思とは無関係に統治される状態が長く続き、日本本土とは異なる政治・教育・経済状況に置かれました。この状態は「沖縄返還」が実現する1972年まで続きました。
問17	答え 新興国	「新興国」は、民族的なアイデンティティを確立しながら、自国の経済発展や社会基盤の整備を目指しました。これらの国々は、冷戦下で米ソどちらかの陣営に加わらざるを得ない状況にありつつも、独自の発展を模索しました。人口や資源の多さを背景に、国際社会において無視できない勢力として成長しました。
問18	答え 沖縄	沖縄はアメリカの極東戦略において極めて重要な軍事拠点でした。ベトナム戦争時には、多くの米軍基地が作戦遂行のためにフル活用されました。住民による返還運動が長年行われ、1972年の返還合意に至りました。
問19	答え 蒋介石	蒋介石が率いる国民党は、毛沢東率いる共産党との国共内戦で劣勢に迫り込まれました。結局、1949年に共産党に敗れた蒋介石は、政府を台湾へ移しました。以後、台湾で国民党による支配を継続しました。
問20	答え 朝鮮戦争	アメリカ軍が介入するこの「朝鮮戦争」において、日本は後方基地としての役割を担いました。戦車やトラックの修理、軍需品の調達などによる「朝鮮特需」が発生し、日本企業は多額の外貨を得て生産能力を回復させました。